

生涯現役—環境分野の専門家を目指して

西村 三郎 Nishimura Saburo [西村経営支援事務所代表]



私と環境問題の関わり

私は永年、コマツの建設機械事業部の製造・品質保証・購買のそれぞれの部門でエンジニアや管理職、関連する小企業の役員を経験しました。環境との出会いは、25年程前、図書館でたまたま出会った書籍、米国政府による特別調査報告書「西暦2000年の地球」です。この本を読み進むと、地球上の環境、とりわけ温暖化の進展シナリオや化学物質の脅威、人口爆発と食糧不足など、現在顕在化している環境問題の殆どが論点となっていました。私にとっては大変な衝撃で、その時以来、何かの形で環境問題の解決の役立ちたいという気持ちが芽生えたのです。

55歳の頃、知り合いからISO認証関係の会社設立参加の誘いがかかり、正式に退社してコンサル会社に移りました。私の専門はTQC・ISO9000でしたが、環境をどうしてもやりたいという思いから、業務の傍ら英国ウェールズ通信制大学院日本校「環境マネジメント学科」に入学しました。大学院はデュプロマ課程まで進んだのですが、修士論文課程になった段階で仕事と両立できず、

やむを得ず中途退学しました。学業は途中で断念しましたが、実務面では自社のISO14001の管理責任者や英国の環境審査員へのオブザーバ同行等の貴重な経験の機会がありました。

エコアクション21（以降EA21と記述）については、2001年から旧バージョンのお手伝いをしていましたが、認証制度発足した2004年頃、コンサル会社を定年退職し独立を機にEA21審査人に応募しました。定年退職後の目標は「生涯現役—環境分野の専門家としていつまでも社会と係わりをもつこと」です。

2005年から環境カウンセラー、2006年から地球温暖化防止推進員、省エネ普及指導員として、そして地域版環境ISOや地域の温暖化防止活動のお手伝いもさせてもらっています。

EA21の普及をめざして

2005年に審査人になった時点より、少しでも多くの事業者に取り組んでもらいたいと私のビジネスブログ”コーヒー・ブレイク”の中にEA21の審査を通して感じたこと、省エネや廃棄物排出量削減などの事例紹介を始めました。また、06年からは

オープン型の”エコアクションSNS”を開設しました。これらブログやSNSの話題の中で特に印象に残った活動を紹介します。

● 土木工事機械の省エネ運転とは

(登録No.208 北陸地建株)

北陸地建は主として道路工事や下水道工事を行う社員数30人弱の土木建設業者です。金沢という歴史都市にあって、重機にはキリン・器材には人型のイラストを施すなど都市景観に配慮した土木工事を推進されています。土木工事業では二酸化炭素量の70～80%が土木工事機械から排出されますが、削減の妙案はなかなか見当たりません。北陸地建では、他社に先がけて重機の「省エネ操作モード」の活用に着目し使用を徹底することにより二酸化炭素排出量を工事量当たり10%削減されました。

中型クラス以上のバックホーには、オプションとして「省エネ操作モード」がついていますが、オペレータは、標準操作モードに比べると「動作速度が落ちる」「掘削力が落ちる」という理由で使いたがらないようです。中部地方整備局の研究では、省エネモードだけを使用した場合は標準モードだけを使用した場合に比べて「全

体的な燃料使用量は 16%削減でき、その時の作業時間の増加は 4%だけである」という結論が得られています。

北陸地建は、この 4%は建設機械の操作技能を高めれば吸収できるかも知れないと考え、納車した建設機械メーカーに依頼して、オペレータ全員に「省エネ・安全運転」の講習を行い省エネ操作モードの使用を徹底されました。また、その改善状況を稼働時間当たり燃料消費量で管理しています。

●環境コミュニケーションで利害関係者の満足度を上げる

(登録 No. 256(株)植宗園)

植宗園は、江戸時代から兼六園など金沢周辺の庭園の管理や造園を行っている社員 10 人の造園事業者です。EA21 では環境活動レポートの公表が義務付けられていますが、これだけでは新規顧客の獲得には寄与しません。植宗園では、造園に関する小冊子を作り営業ツールとして顧客に配布しています。この小冊子は市民にも好評で地元の植物を紹介した小雑誌「森からのおくりもの」は、石川県立図書館の蔵書となっています。

また、植宗園は県立公園の指定管理者となっていますが、公園にはケヤキなど腐葉土づくりに適した木が多くあります。公園の管理者となっていますが、公園にはケヤキなど腐葉土づくりに適した木が多くあります。公園の落葉を清掃している際、公園利用者の中に園芸用に落葉を分けてほし



写真 公園の落葉

いという声がありました。そこで金沢市に働きかけ「落葉リサイクル」と名付けて公園の入口に譲渡を知らせる掲示板を設置したところ、多い日には 5、6 件の希望者が訪れるようになりました。

持ち帰った落葉は各家庭で園芸や家庭菜園の堆肥として使用され、本来は埋め立てごみとなる落葉が再利用され処分費が年間 100 万円も削減されたとのことです (写真)。

究極の審査は褒めること

私が住む石川県では認証制度設立当初は登録事業者数に対して審査人が不足していたため、これまでに 25 社、延べで 74 回と多くの審査の機会を与えていただきました。やる気があって成果の上がっている活動を見るのは楽しみですが、必ずしも良い事例ばかりではありません。ある事業者にお伺いしたとき「EA21 は、県の入札条件の経営審査評価点をもらえるからやっている。このような厳しい事業

環境にあるのだからお金も、手間もかけたくない。合格する最低限で審査してほしい」といわれました。事実、環境負荷の改善にも余り熱心ではないようでした。

この事業者は審査人にお金を払って審査をしてもらっているため、審査人を仕事の委託先のように考えていると感じました。しかし、受審事業者は審査人の顧客ではあるが、第一番目の顧客ではありません。第一の顧客は、EA21 の認証のあかしを基準に事業者の環境への取組姿勢を評価する取引先や行政・市民です。

また、事業者に積極性がない場合は、形式だけ整えてもいずれ行き詰まりを招くことになります。ですから、ダメなものはダメとハッキリいわなければならないが、その話し方が難しい。メンタルヘルスでは「積極性を育てるには、10 褒めて 1 つ指摘するのが良い」とされています。審査人は上手に褒めることで事業者の積極性を引き出すのです。そしてこのことが活動の持続と EA21 の普及・発展につながると考えています。